

令和元年度北海道稚内養護学校 第2回学校運営協議会記録

- 1 日 時 令和元年10月24日(木) 13:00～15:10
- 2 場 所 北海道稚内養護学校 会議室 視聴覚室
- 3 式次第
 - (1) 開会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 委嘱状授与
 - (4) 日程の説明
 - (5) 令和元年度学校評価について
 - ・質疑
 - (6) 各部に分かれての熟議
 - ・学校評価部会
 - ・地域連携部会
 - (7) 全体交流・質疑
 - (8) 校長挨拶
 - (9) 閉会
- 4 令和元年度学校評価について
学校評価基準について
 - (1) 教職員と保護者の共通の項目による学校評価と本校職員のみでの学校評価で設定する。
 - (2) 項目数を減らし、内容の精選を図る。
教職員 30→10+5 保護者 25→10
 - (3) 学校評価基準を設定し、達成状況や改善すべき点を客観的に評価する。
 - (4) 「教職員」及び「保護者」アンケートの全ての項目の評価点の「中心値」及び「四分位数」を算出。
 - (5) 「中心値」から「+1 四分位」までの評価点を「B」(おおむね十分である)とし、「+2 四分位」より高い評価点を「A」(十分である)とする。
 - (6) 「中心値」から「-1 四分位」までの評価点を「C」(不十分である)とし、「-2 四分位」より低い評価点を「D」(改善を要する)とする。
 - (7) 各項目ごとに「達成状況」「取組の適切さ」の評価及び「検討事項・改善の方策等」を整理する。
 - (8) 教職員については、「私」を主語として回答するが、当てはまらない場合は「学校」に置き換えて回答する。

質疑

- ・改訂された学校評価は、項目がしばられていてわかりやすいと思う。
- ・「ICT」との言葉の意味がわからない保護者もいる。学校で使われる言葉だと難しいので、保護者がわかりやすい言葉にしていくとよい。
- 指摘を受けことについて、保護者の目線で再考し、修正していく。
- ・保護者向けのアンケートは、小・中学部、高等部で同じ内容なのか。学校に通っている年数が違うと、理解度が違うと思うので、配慮が必要だと思う。
- 在籍期間が個々で違う点のご指摘のとおりだと考える。しかし、各学部で内容を変えるには様々な課題もあるので、必要な配慮を考え、今後の課題と捉えていく。

5 協議内容（各委員からの主な意見）

➤学校評価部会

協議の柱

「学校と地域課題の共有と課題解決に向けた方策について」

(1)平成31年度学校評価について

アンケートの配布先について再検討（地域をどのように捉えるか）

- ・「地域」は声問地域に限定されず、稚内全体とも捉えることができる。配布先をどこまでにすべきか意見をいただきたい。
- ・昨年度はアンケートの回答を、町内会の班長にお願いしたとのことだが、学校と同じ声問町内だからか「理解している・はい」が多いと感じた。しかし、声問町内を離れると数値は低くなるのではないか。
- ・地域といえば声問町内会という前提だったが、進路等を考えると市内、管内といった範囲でアンケートを取ることも必要かもしれない。しかし、アンケートの目的をもっと明確にして対象を絞っていく必要がある。
- ・20年前、まだ相談機関があまりなかった時代、施設のニーズ等を聞くために民生委員の方にアンケートの聞き取りをしたことがある。民生委員の方は情報を持っている。
- ・「学校便り」も、声問地域のみならず広く目にしてもらえるようにしてはどうか。
- ・関心が高いと思われる特別支援学級に「学校便り」が掲示されるとよい。
- ・卒業生の進路先の地域や学校に、「学校便り」やアンケートを配布することが学校を知っていただく機会になると考える。声問町内と市内の他の地域では学校の認知度に温度差がある。学区も広範囲であることから、声問を越えた町内の方に知っていただくことも必要。
- ・昔と違って障がい児が地域へ出ることが当たり前になってきており、障がいへの理解を求めるポスターなども掲示されたりしている。そういった流れに乗る形で学校の様子を掲示物やアンケートで発信してはどうか。内容は一般的な簡単なもので「詳しく知りたい方はこちら」と、連絡先やQRコードをつければよい。これをきっかけにHPを見てもらえれば。地域アンケートは地域アンケートで、目の届く範囲の方に学校の活動を知ってもらうためのものでよい。

- ・学校のことをそれほど知ってもらう必要があるのかと疑問に思う。保護者には子どもが養護学校に通っていることを隠している人もいる。アンケートはそれほど広範囲でなくてもよいのではないか。
- ・声間はノーマライゼーション推進地域になり交流が進み、徐々に障がい者への偏見が減ってきた。これまでの話し合いを受けて、範囲はあまり広めずに声間地域中心でよいのではないか。
- ・学校が必要とするアンケートでよい。国が共生社会を目指して社会も様々な変化をしている。そういう意味ではアンケートが必要ない時代が来るかもしれない。

(2) 地域アンケートをどのように学校経営に活用できるか。

- ・どのような項目を設定するかが大切である。そして、保護者や地域の要望を捉えながら学校経営をしていく必要がある。
- ・地域アンケートについては、いただいた意見を持ち帰り配布先を含めて検討する。項目についても精査する。
- ・本校の情報の発信について、ご意見を伺いたい。本校ではラジオなどで様々な情報発信をしているが、協議員の方にどれくらい認知されているか話を伺う。学校としては今後、Twitterの活用なども検討していく可能性がある。

➤ 地域資源を活用した教育活動について

協議の柱

「地域と共に歩む学校を目指し、地域資源の活用による体験活動の充実について」

- ① 自己紹介
- ② テーマの共有
- ③ ポスターを見る、意見や思いを書く
- ④ ポスターを見ながらの協議、意見交換
- ⑤ 学校運営協議員として、学校運営協議会を活性化するためにやりたいことなどについて意見交換

(1) テーマの共有

- ・先生方の「いいね！」シールや書かれた意見に対して、思ったこと、考えたこと(アドバイス、お返事なども含めて)を模造紙に書く。
- ・学校運営協議員の視点で、学校運営協議会を活性化させるために、「これやりたい」「まずは、こんなことから始めてみては？」と考えることについて意見交流を行う。

(2) 協議、意見交換～模造紙に記入しているとき～

- ・小中学校と支援学校の行事は擦り合わせているか。行事が重なっていることが多くある。
- ・運動会や学習発表会については行っているが、それ以外は行っていない。
- ・東小、東中、声間小は行っている。
- ・潮見が丘小と潮見が丘中のPTA総会が重なっていた。他の日にできず、午前と午後

で分けていた。

- ・昨日(10月23日)のふれあい音楽の集いはとてもよい取組だったが、あの規模で行うのはもったいなかった。平日だったので、保護者が来るには難しかった。他にも来たい人がいたが、時間がわからず、ホームページを見たが載っていないかった。声問小もなかなか頻繁にはできないが、こまめに更新しようと努力している。早めに情報を伝えることが大切だと思う。昨日は、緑風苑の方が2名来ていた。

(3) 協議、意見交換～模造紙に記入後～

- ・ボランティアについて付箋に書かれていたが、私も朗読ボランティアを行っている。市内にはいくつもあり、時間に余裕がある方ばかりなので、朗読ボランティアのサークルは協力ができる。
 - ・送迎について課題となっているが、東地区で出た案だが、幼稚園のバスは送迎時間以外ならお願いできるかもしれない。民間のバスだが、手続きをとれば貸してもらえるのではないかな。
 - ・「ふらっと」には稚内高校定時制の学生がたくさん参加している。一緒に活動できるとよい。
 - ・社教との連携と付箋に書かれているが、どんなイメージを持っているか。内容によっては実現可能ではないか。
 - ・信金の富岡支店は学校だよりなどを貼ってくれると思う。伝えておくようにする。
 - ・PTAだよりは、モチベーションを高めると勝手に凝ってくれるかもしれない。潮見が丘小では、コンクールに出している。コンクールに出すと、モチベーションが上がる。
 - ・移動販売については、他の施設と同じ日時で行えば、できなくはない。キャッシュレスも端末があればできる。
 - ・送迎については、CSの見せ所であると思う。高齢者対策で、町内会と協力できないか検討中の案件があり、その考え方が活用できるかもしれない。車を持っているシニアの人に協力してもらって、近場の店に行ってはどうか。
 - ・「ふらっと」は現在3か所で行っている。宝来、東地区活動拠点センター、さくらヶ丘町内会館で行っている。
 - ・地域の産業体験は大事だと思う。地域の産業をわかっているのか、本物を見ることが大事だと思う。
 - ・地域的行事への参加は、地域も望んでいるはず。声問小にも声をかけてほしい。避難訓練や海岸のごみ拾いなどはみんなへの声かけが大切だと思う。
 - ・様々な学校との情報交換・共有が大切だ。
 - ・花壇整備はぜひ一緒にやりたい。児童会の公約が「クリーン作戦」で、子どもたちが自主的に行っているなので、一緒にできたらと思う。
 - ・ホームページを見ている人もいるので、新しい情報を早く更新するとよい。
-
- ・共生社会の始まりは、情報共有から始まる。TwitterやFacebookを活用する時代かも。すぐに発信して返ってくるのがよい。学校の先生は「誰がやるの?」となる。担当を決めなきゃダメ。反応がないとダメ。学生は一声かけるだけで、ぱっとやってくれる。そういう

- のがよいと思う。ただし、肖像権があるので、写真の撮り方には気を付ける必要がある。
- ・キャッシュレスの経験は必要かなと思う。管理の問題もあるが、周りの人がサポートするとよい。
 - ・学生のボランティアについては、とんでもないことを言ってみてもよい。要望を出してくれた方がよい。できるように考えると思うので。だめなときにはだめだと言う。
 - ・学校は閉鎖的で暗いイメージがある。ちょっとあったことを伝えていくことが大切だと思う。

(4)～学校運営協議会を活性化するために～

- ・保護者のアンケートの項目と教職員のアンケートの項目を相関図みたいにしてはどうか。そうすると、保護者は高いけど先生は低い、といったところが出てくる。保護者と先生方の思いの違いが見えてくる。その結果を責め合うのではなく、前向きに考えていくとよい。
- ・手探り状態であると思うが、まだCSが見えない。
- ・何度も顔を合わせることが大切だと思う。学校公開にも行ったので、見えてきてはいける。まずは協議会のメンバーに開いてくれるとよいと思う。学校公開の説明会はおもしろい形だった。学校に行ってみると気づくことがある。一度行けば、横のつながりで「ちょっと学校に行ってみよう」と見る人が増えていくと思う。何かの機会に学校に行ってみることが大切だと思う。
- ・地域は、学校は地域のものと思っている。特に稚内は。
- ・空港とつながりをもつことはできないかと考えている。
- ・よいと思う。青年会議所で写真展を行った。空港でも1週間行った。
- ・授業を見る機会があるとよいかと思ったがどうか。
- ・見ないと学校のことはわからないと思う。顔合わせをしないと、人のつながりとしてもつたいたいと思う。「地域にこんな人がいるよ」と協議会側から出せるとつながっていくと思う。
- ・社会教育ともつながりたいと考えている。
- ・社会と接する面を広げられるとよい。そのお手伝いができればと思っている。
- ・メンバーに若い人も入れてみるとよい。すごく若い人を入れてみてはどうか。一人居るだけでも違うと思う。
- ・直接他の先生と話してみるのはいかがでしょうか。
- ・それはいいと思う。

5 全体交流・質疑

- ・学校評価部会、地域連携部会で熟議した内容を報告。

質疑応答

- ・教職員は、外に行く機会が少ない。地域は、教職員に対して、どんなことを望んでいるのか知る必要がある。また、地域に関わる機会が少ない。
- ・学校に何回か来ると、お店に来たときに「私が居た」と気づかれることがある。そのような顔を合わせるきっかけが重なることで、話をし合う関係になると思う。学校を開けてくれるなら来たいと思う。無理矢理はだめだと思うが、それぞれの好きな分野で関わりがもてるとよいと考える。
- ・学校でクラブを作っては。「これをやりたい」と思ったら、他の人に声をかけてみては。
- ・地域での活動は平日に行う機会もあるが、参加できるように声をかけていきたい。